

白木峠

ふるさと通信

vol.3

新田郷の今の活動や、昔の懐かしい行事などをお届けする、ふるさと情報誌です。

雪が解ければ雪椿



秀衡街道に咲く雪椿・野々宿口周辺（例年5月中旬が見ごろ）

新田郷地区からのお知らせ



産直高原プラザの開店

平成30年6月2日～10月末
場所：西和賀町中村 58地割45-4
定休：水曜日

春は山菜、夏は採れたて野菜や切り花、秋はキノコ。漬物や、工芸品のコーナーもあります！



白木峠ハイキング

平成30年8月11日（土）
場所：白木峠
問合せ：ふるさとふりむけ隊委員長まで

一昨年に山の日が制定されたことにあわせ、地区の親睦を目的に実施しています。気軽にご参加ください。



盆踊り

平成30年8月15日（水）
場所：旧越中畑小学校グラウンド

死者を供養する行事と言われている盆踊り。昔は数日踊り明かしたとか。今は町外に住む人たち懐かしく省みる行事です。



新田郷地区運動会

平成30年8月26日（日）
9:00～11:30
場所：旧越中畑小学校

小規模多機能ホーム「雪つばきの里」として生まれ変わった旧越中畑小学校跡地で、住民の融和と健康づくりのため運動会を継続開催しております。

懐かしい風景



野々宿の菅原信夫さんの家を、地域総出で解体している様子で、昭和36年頃の写真です。高橋文夫さん（92）が若かりし頃撮影していた写真がネガの状態でのこっていたため、現像したものです。

3 早川 正剛さん一家

屋号・通称等【向こうの家】



4 高橋 トミさん一家

屋号・通称等【なし】



1 高橋 有さん一家

屋号・通称等【まんくろ】



2 佐藤 達也さん一家

屋号・通称等【なし】



有さん（81）、妻・悦子さん（79）、長男・和哉さん（46）、長男の妻・めぐみさん（42）、孫・優人君（16）、孫・瞭君（13）の6人家族です。

有さんと悦子さんは農業をしながら孫の成長を楽しみに生活しています。和哉さんは町役場職員として働き、めぐみさんは歯科衛生士として働いています。優人君は横手清陵学院の2年生で英会話部に所属しています。瞭君は湯田中学校の2年生でソフトテニス部を楽しんでいます。めぐみさんはその応援が楽しい日々です。

達也さん（40）、妻・葉子さん（39）、長男・蓮君（17）、次男・暁人君（12）の4人家族です。

達也さんは西和賀町の役場に勤めていて、葉子さんも会社員として働いています。最近楽しいことは？と聞くと、夫婦そろって読書にはまっていると答えてくれました。蓮君は高校生でソフトテニスを楽しんでいるので、暁人君はゲームをしているのが楽しいそうです。

出身者のみなさんへ一言、「ふるさとへの応援、よろしく願います。」

感想の紹介

本誌への感想をたくさん頂きました。ありがとうございました。その一部をご紹介します。

みなさんの顔に安心

白木野出身 匿名さん

まずは、表紙の写真が懐かしさを感じさせてくれました。自分も小学生の時、人形送りで何年か、法螺貝を吹かせて頂いたことがあるからです。夕方のニュースに映って嬉しかったのを覚えています。

ページをめくると見覚えある近所の人達ばかりで安心しました。みんな表情が良く元氣そうで、それぞれの家の状況を知る事ができました。写真も上手く撮れています！自分の家のことになるとなんだか照れくさいものですが…写真嫌いな父が頑張って笑顔を作っているところには泣かされました。

そして、イチゴ栽培の菊池さんの存在は初めて知りました。自分は何も出来ませんが、頑張っている人の

夏は越中畑の涼しさが恋しく

越中畑出身 増田正子さん（旧姓佐藤）

「新田郷ふるさと通信」をながめとても懐かしく、聞きなれた屋号、お元氣なご家族の写真など嬉しく拝見しました…。

私も年に1、2度、実家の越中畑には帰っておりますが、なんとも言えないのどかさ、いくつになっても大好きです！

今現在住んでいる、埼玉県行田市は、大宮から30分の「日本一暑い」で名が知られている熊谷市のお隣です。雪も降らず、ただただ物凄い暑さだけが売りのようです…6月～9月は、越中畑の涼しさが恋しくなります。

新田郷のお若い（？）方々のご活躍、遠方より応援しております。

すてっこ一服 むかし語り

団体優勝時のメンバー（昭和28年頃）



中村公民館のロッカーに入っている木箱。何かとずーっと思っていたら、それは青年演劇大会で優勝し、村から頂いたものだ、と高橋トシさんが教えてくれた。

65年程前、何の娯楽もない時代、方々から若者が集い、唄い踊り演じていたという。細内、中村の大きな農家の庭先や座敷でも、そういう催しが開かれていたというから、この時代の芸能の豊かさが羨ましい。

トシさん達は20歳前後の頃、演劇に夢中になり、たくさんセリフを夜中までかかって覚えたという。その甲斐あって個人賞、さらに中村地区が優勝して団体賞を受賞。その後劇団ぶどう座にも客演したとか…。

「昨日のことは覚えていないが、昔のことは走馬燈のように思い出せる。」とトシさん。目を輝かせて話してくれた。ちなみに団体賞の彫像は、本郷新（1905～1980）という、かの高村光太郎氏に師事した著名な彫刻家による

作品だそうです。

「なんでも鑑定団」に出してはどうかと思ったが、レプリカに違いないから恥をかくだ、とトシさんと大笑い。

（文・菊池啓「中村」）

ふるさとを回想

小田島 久雄さん 北上市在住70歳

私、昭和36年3月卒業の越中畑小学校第14回生の小田島久雄です。今年古希を迎え70才となりました。当時の越中畑小学校の児童、生徒全校生で150名以上おりました。私たちのクラスも1クラス36名おりました。いわゆる団塊の世代の人達で、進学するにしても就職するにしても常に競争社会の中で生き抜いてきた世代であります。

私の同級生たちは比較的多くの人達がふるさと新田郷で活躍されております。36名中9名が在住し、今も地域で活躍されております。自分は現在、生活の都合上北上に住んでおります。細内に田畑、山林等があり、毎年保全管理の為、行つて作業をしております。新田郷から完全に離れた訳ではありません。新田郷を離れた人達は、生まれ育つた新田郷は決して忘れてはいけず、色々な条件で離れていっても、ふるさととは忘

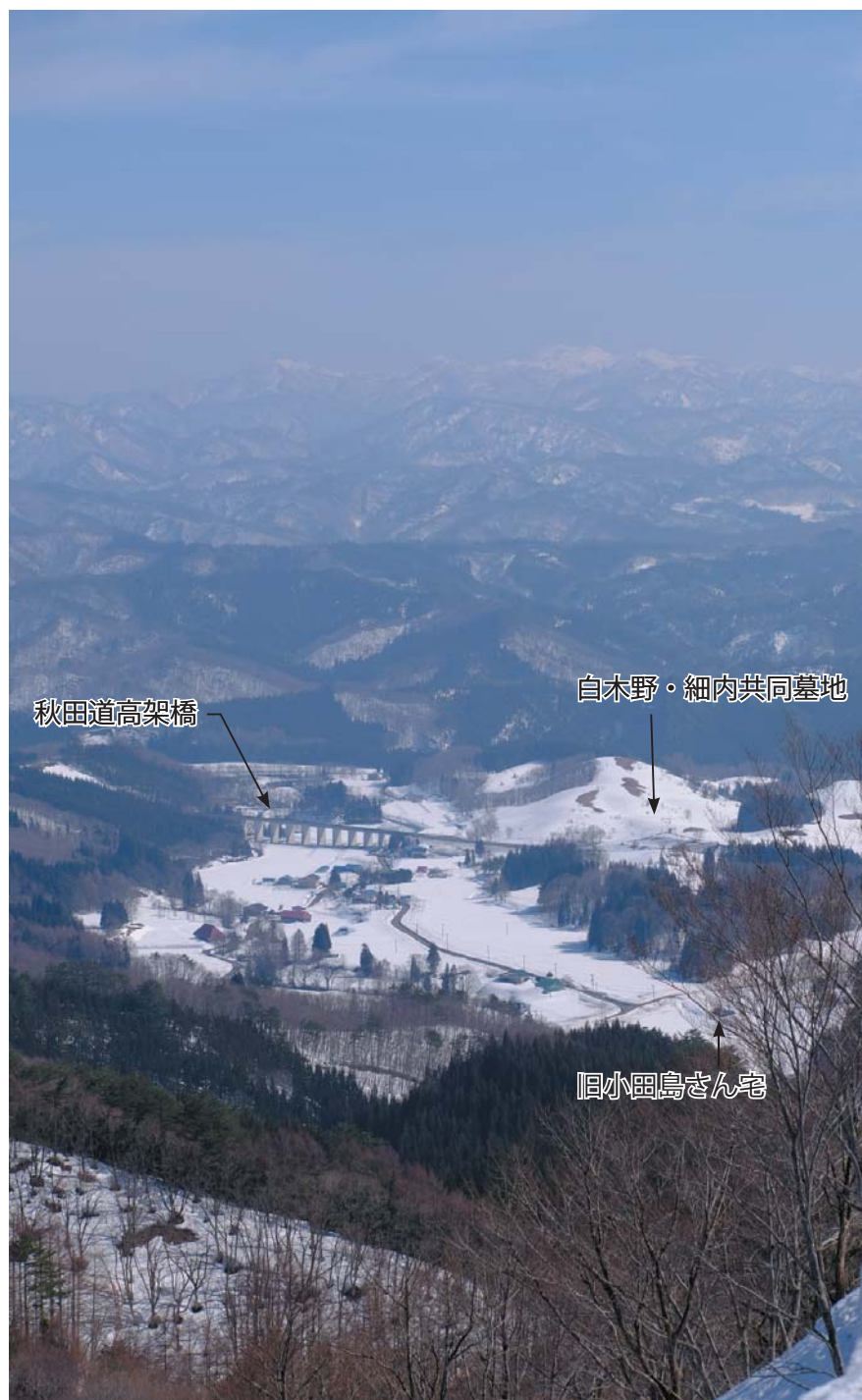
れていないと思います。

歴史、自然の豊かな新田郷、私の人生のバックボーンとなつております。私は北上で博物館企画の自然観察会、民俗村のボランティアガイドなどやっております。一昨年白木峠の植物観察会のガイドで、40人ばかりの北上市民を連れて行き案内をしました。地元の人達が白木峠ハイキ

ングコースを整備していただいたお陰で、カタクリ・ミスバシヨウ・ユキツバキ等観察することができ、皆さんから大変喜んでもらいました。また歴史の道でもあり、自分も勉強になりました。

昔から変わらない自然、しかし人口が減り賑やかだった小学校がなくなり、寂しい限りです、「新田

郷ふるさとふりむけ隊」で頑張っている皆さんのご苦労を考えると頭が下がります。自分も「この地域を盛り上げるためにはどうすればいいのかと考えますが、なかなか名案は浮かびません。定住できる環境を整える事、働く場所が必要なのかもしれない。活力のある新田郷の発展を希求します。



割倉山より細内集落方面を3月下旬に撮影したもの。

5 菊池 吾朗さん一家

屋号・通称等

【下】



6 高橋 哲男さん一家

屋号・通称等

【善太郎】



7 菊池 隆志さん一家

屋号・通称等

【弥右工門】



8 菊池 賢さん一家

屋号・通称等

【東・長右工門】



吾朗さん(69)、妻・洋子さん(66)、母・テルさん(88)、長男・伸也さん(37)、長男の妻・加奈さん(33)、孫・乙未ちゃん(2)の6人家族。主に、夏は農業、冬は除雪をして過ごしています。

吾朗さんは毎日の温泉入浴が欠かせないとか。洋子さんはパンづくりにはまっています。前号で特集した伸也さんは農業に一生懸命。加奈さんは地元小学校に勤めながら子育てに奔走中です。アイドル乙未ちゃんはパズル・タングラムに夢中で、そんな曾孫の姿を見るのがうれしいテルさんです。

哲男さん(67)、妻・敏子さん(65)、長男・伸さん(44)、孫・珠菜さん(20)、犬のなつ(8)、カメのおカメ(年齢不詳)の4人と2匹の家族です。

哲男さんは農業に忙しい日々を過ごしています。妻の敏子さんは、町内にある旅館でパートとして働いています。伸さんも町内の水道会社に勤めていて、孫娘の珠菜さんは茨城県の学校に行っています。犬のなつは、最近花粉によりくしゃみが出ていて、それが悩みの種だそうです。おカメは元気に過ごしています。

隆志さん(68)と妻・栄さん(64)の2人家族です。2人とも、ほととゆだ駅そばにある菅喜建材株式会社で、現役で働いています。もちろん百姓仕事も現役です。

隆志さんと栄さんにとって最近楽しいのは孫の追っかけで、長女は盛岡、長男は北上に住んでいるのと。その他、隆志さんの方は還暦野球で国内を巡っており、栄さんは家庭菜園と、友達同士で集まっておしゃべりをする『女子会』を楽しんでいるそうです。仕事もプライベートも充実した日々を過ごしています。

賢さん(58)、妻・洋子さん(55)、母・ルイさん(82)の3人暮らし。賢さんは、J3プロサッカークラブ「グルージャ盛岡」を運営する(株)いわてアスリートクラブの社長として忙しい日々です。洋子さんは川尻の美容院「サロンド愛」に勤めています。ルイさんは週4回デイサービスに通っています。

「グルージャ盛岡を応援してください! サッカーを通じて岩手を元気に、子供達に夢を! 岩手一岩(一丸)で頑張っています!」

9 鈴木 文子さん一家
屋号通称等【さっこむかい】



文子さん（86）と長男・淳一さん（57）の2人家族です。
文子さんの方は、最近足腰が弱ってきてしまったそうで、歩くのがつらい時があるようです。長男の淳一さんは会社員として北上で働いています。最近はメタボにも頭を悩まされていて、その対策のひとつとしてウィンドウショッピングを楽しんでいるようです。楽しみつつ、歩くことで運動にもなるため、はまっているのだそうです。週末は北上から来て畑作業を手伝っています。

10 佐藤 正一さん一家
屋号通称等【じゅうえむ】



正一さん（69）、長男・和夫さん（42）、妻・牧子さん（66）、母・ヒデさん（88）の4人暮らしです。
正一さんは時々会社に行きつつ、普段は農業をして過ごし、山菜採りと老人クラブのサロンを楽しんでいます。ヒデさんは畑仕事をしつつ、脳トレの点つなぎパズルで息抜きしています。牧子さんは雪つばきの里に勤めながら、自分より大きくなってしまった孫を見るのが楽しみだそうです。和夫さんは北上の建設会社で働いています。

11 菊池 一治さん一家
屋号通称等【彌兵衛】



一治さん（63）、妻・友子さん（60）、次男・陽介さん（22）の3人暮らし。
一治さんは農業や蕎麦の生産と、羊も飼育しています。友子さんは地元の介護施設にパートで調理の仕事、次男の陽介さんは、4月から社会人として北上に通い始めました。
一治さんは自分で選んだ『三十名山』の踏破にはまっています。友子さんは孫と遊ぶのが楽しみ。陽介さんはラーメンの食べ歩きが趣味です。二女美月さんは北上に住んでおり2人の子供がいます。

12 柳沢 貞子さん一家
屋号通称等【下の家】



貞子さんは野菜や漬物を作って産直で販売するなど農業を頑張っています。未希さんは北上の会社員に、里美さんは役場に勤めています。あゆみさんは西和賀高校3年生の美術部で活動するかたわら、歴史ある劇団ぶどう座や銀河ホール演劇部で活動もしています。昨年は初めてオリジナルの脚本も書きました。
※ご都合により2世帯紹介できませんでしたが、元気で暮らしています。

新田郷で頑張ってます



はるのや
そば処「春乃家」

後列左は西和賀産業公社に勤務する長男の涼太さん。右が西和賀商工会に勤務する次男・廉さんです。時々はお店の仕事も手伝ってくれる優しい息子さん2人に支えられ、今日も頑張る春男さんご夫婦です。

駅前に移住しました

今回は、平成20年、ゆだ高原駅（旧岩手湯田駅）前に移住し、3年前からそば処『春乃家』を経営している高橋春男さん（槻沢出身・59歳）・こと子さん（湯川出身・59歳）ご夫婦の頑張りを紹介します。

どちらも生家には兄がいたため実家に残る必要もなく、それぞれ自動車整備と美容関係の専門学校を卒業し上京。10年間の東京生活のなかでの再会・結婚を経て、Uターンしました。

自動車整備工からの転職

東京から帰ってからの20年間は、湯田の町営住宅に暮らし、私は大沓の自動車整備工場で、妻は学校給食調理の仕事に従事しました。この間にふたりの息子（長男・涼太・30歳次男・廉・26歳）を授かりました。

新田郷に移転してからもしばらくは、それまでの職場に通っておりましたが、たまたま、今年亡くなった小田島正治さんから「空き店舗を使って何か商売をしてみないか」と

いう声掛けがありました。若いころから飲食店をやっていたという気持ちがありましたし、妻が調理師免許を持っていたこともあり、お蕎麦屋さんを開くことを決断したわけです。

“売り”は地元食材

こうして平成27年4月のオープンにこぎ着けました。

僅かなメニューからのスタートでしたが、3年間にメニューも増え、この春からは十割そばも楽しんでいたできるようになりました。

私たちが心掛けていることは、できるだけ地元食材を使うことで、そば粉はもちろんのこと、春にはバツケ（フキノトウ）やタラの芽、ワラビなどの山菜を、夏場は川魚を、そして秋にはキノコをメインにと、自分で山や川に足を運んで調達しています。

妻の膝痛もあり、今のところこれ以上メニューを増やすことは考えておりませんが、地元の食材を大切にしていきたいと思っています。ふるさとにお帰りの際は、ぜひお立ち寄りください。